

古文書を読む会学習記録

作成日 平成27年 2月19日

開催日	平成27年 2月 12日	時 間	10:00～12:00
場 所	金沢公会堂3号室	出席人数	14名
講 師	真田 雅行 氏	作成者	兒玉 仙三
テーマ	第一学習 永嶋家文書②		
概要	<p>今回は「異国船取押方日記」2回目で巳年2月26日～末日の途中まで</p> <p>1、同26日 乙浜村へ罷越し、浦賀出役の旅宿に要右衛門（旅宿の名主）を訪ねた処、「浦賀出役衆は今朝乗船で白子浜へ見廻りとして参られた」由。そのため、直ちに白子浦迄罷越す。その途中に隠坊山という高山へ登り、今般御大老様より渡された「遠鏡」を以て海上を見詰たが、遠海まで異船の帆形等一切相見えず。然るに、浦賀出役衆も白子浦より新湊へ罷り越し、模様方承り候処、与力「合原操蔵」殿は次の様に申された。</p> <p>『異船見届として、去る廿三日に同役近藤改蔵一同出向いたが、何れへ走り候哉相見えず。改蔵は昨日洲之崎浦へ見廻りに罷り越、拙者は当地に居残り、白子辺り迄も見廻り、風説等を糺したが、近辺に漂い居る様子は無く、遠海へ走り去ったのだらう。なれば、当所に止まり居ても詮事なき故、奉行中へ伺書を差出した。今夕頃には返書が来るだらう。』</p> <p>そこで、私共も御伺の為に、一先ず引き帰り、お指図を得るために、同日七ツ時過同所出帆、鴨居浦へ帰船。御船奉行行田治助殿へ相届。</p> <p>2、同27日 異船物見として宇野武左衛門・永島卯兵衛等乗組み、押送三艘にて鴨居浦出帆、房州洲之崎へ罷越すも、29日になっても帰村致さず。然れども、『異船大嶋沖合、或いは勝浦辺の遠沖に相見へ候』など種々風聞が有るので、鴨居詰合の差配一同安心成り難し。</p> <p>3、同29日 御政事元へ罷り出、この風聞の趣申上げ、『異船取押え方々出帆致しては如何』と伺を立てた処、次の様に仰せつかった。</p> <p>『申出通りに出船を申付ける。早々出船致し、洲之崎へ着の上、浦賀出役並に下総守出役等とよく打合せ致すこと。諸注意を承る。また、異船の行衛見えずとも、浦賀出役の引取が有る迄は彼の地に止り居り、心して物見専一で、浦賀出役の者と一同帰船致すべし。』</p> <p>同日未の下刻頃鴨居浦出帆。申の刻頃洲之崎北の方へ着船。直ちに、浦賀出役の旅宿へ罷り出、異船の情報を聞くも変化なし。但し、奉行からは『仮令異船が見えずとも、当月晦日迄は見張り居る様に。』と申付けられたとの事。今晚にも変わったことが有ったら知らせてくれと頼み、旅宿へ引取。</p>		
次回	平成27年2月26日 10:00～12:00	於:金沢公会堂会議室	第二学習 ジョン万次郎帰朝記事②